

# 営業の概況

## 平成28年3月期の営業の概況(第147期/平成27年4月1日~平成28年3月31日)

当期のわが国経済は、中国をはじめとする新興国経済の減速を背景に、企業の輸出や生産動向に弱い動きがみられましたが、個人消費は雇用・所得環境の改善などで底堅い動きとなり、景気は緩やかな回復基調となりました。

地元香川県におきましても、住宅投資や企業の生産動向は持ち直しから横ばいの動きへと弱含んだものの、労働需給が着実な改善が続ける中で、個人消費は緩やかに持ち直しており、設備投資も底堅く推移するなど、景気は緩やかな回復を続けました。

金融面では、日経平均株価が企業の業績回復期待から、15年ぶりに2万円台を回復しましたが、その後、新興国経済の減速懸念を背景とした世界的なリスク回避の動きにより株安の流れとなり、当期末の日経平均株価は前期末比2,448円32銭安の16,758円67銭となりました。また、長期金利の指標となる新発10年物国債利回りは、日本銀行による国債大量購入に加え、マイナス金利政策の導入の影響もあり、前期末比0.450%低下してマイナス0.050%、円の対米ドル相場は、前期末比7円49銭円高の112円68銭となりました。

このような金融経済環境の中、当期における業績は次のようになりました。

## 平成28年3月期決算の状況(当行単体ベース)

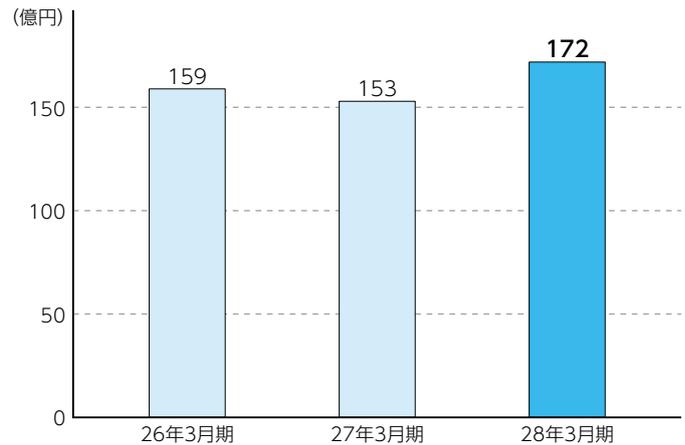
### 実質業務純益の推移

実質業務純益は、資金利益の増加などにより、前期比19億1百万円増加して172億43百万円となりました。

#### ※用語のご説明

##### 実質業務純益とは

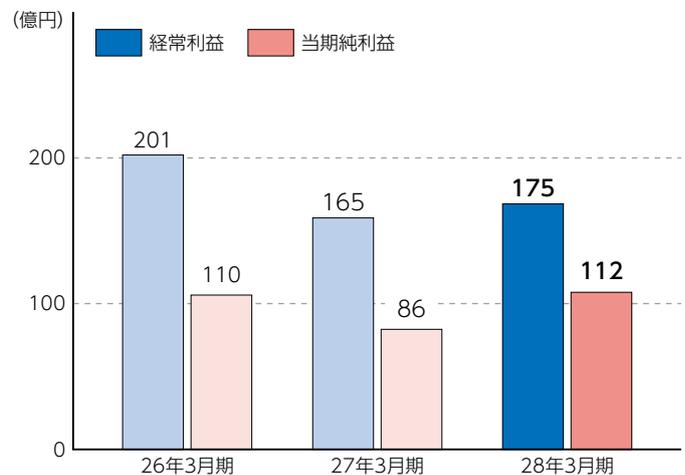
実質業務純益 = 業務粗利益(資金利益 + 受取手数料 + 債券関係損益など) - 経費



### 経常利益・当期純利益の推移

経常利益は、与信関係費用が増加しましたが、資金利益の増加及び有価証券関係損益の改善などにより、前期比9億15百万円増加して175億14百万円となりました。

また、当期純利益は、前期比26億62百万円増加して112億68百万円となりました。

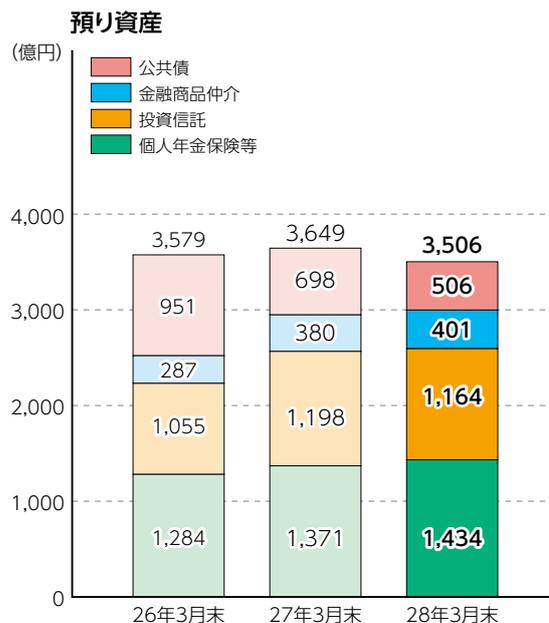
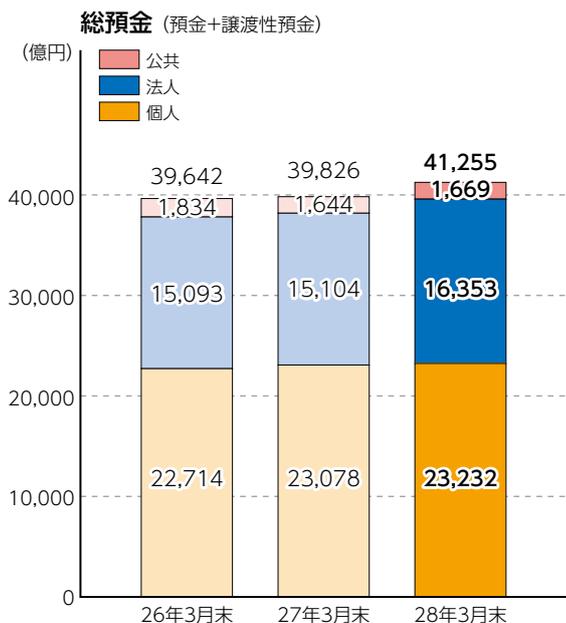


## 総預金・貸出金等の残高推移

### 総預金

法人、個人及び公共預金がいずれも増加したことにより、当期末の総預金残高は、前期末比1,428億79百万円増加して4兆1,255億76百万円となりました。

また、預り資産残高は個人年金保険及び金融商品仲介が増加しましたが、公共債及び投資信託の減少により前期末比143億60百万円減少し、3,506億17百万円となりました。



### 貸出金

公共向け貸出金が減少しましたが、法人及び個人向け貸出金が増加したことにより、当期末の貸出金残高は、前期末比504億37百万円増加して2兆7,525億62百万円となりました。

また、住宅ローンを積極的に取り組んでまいりました結果、当期末の住宅ローンの残高は、前期末比218億53百万円増加し、4,829億42百万円となりました。

